

子どもコース ニュース



第7号

日本ヴィパッサナー瞑想センター：京都府船井京丹波町八田岩上奥 電話:0771-86-0765

日本ヴィパッサナー協会

2009年3月発行

いつくしみつてなに

2008年5月6日、京都のめいそうセンター、ダンマバーヌで、子どもコースがおこなわれました。さんかしたの、8歳から13歳までの、女の子4人と男の子2人のあわせて6人。



はじめてさんかのTくんは小学3年生。ホールに入って、さいしよは、おちつかないようすでしたが、先生が「かおのまんなか、はなのあなの入り口のところ、ちゆういをむけましよう」とうながすと、サツとしゆうちゆう。小学5年生のKくんも、毛布をかぶってみごとにすわり、リトルブツダのようでした。

女の子たちも、まけてはいません。まえにすわっている中学生の2人は、さすがおねえさん、どっしりとおちついていきます。小学生のKちゃん、Rちゃんも、ねむい目をこすりながら、い

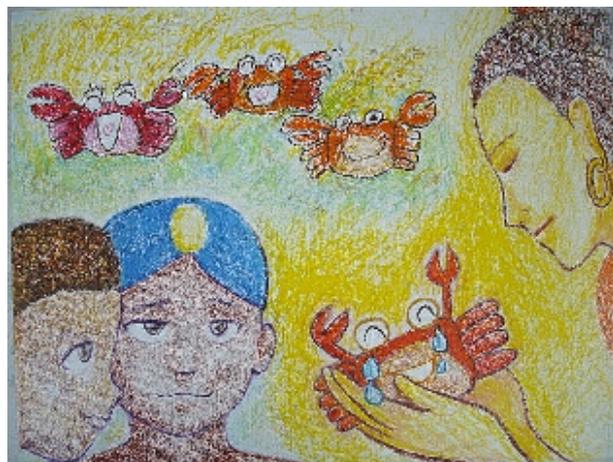
つしよけんめいとりくみました。

お話タイムは、「かにをいじめる子どもたちの話」の紙しばい。かにの手足をもぎとって いじめている子どもたちを見て、おしゃかさまがやさしく、おこえをかけます。

「かにも ころろがあるのだよ。いたくて、かなしくて、なっているのだよ」「かにも お父さんやお母さん、おにいさんやおねえさん、おとうとやいもうともいるのだよ...」。

いじめていた子どもたちは反省して「ごめんさい」とあやまります。

みんな、しんけんに見ていました。「かにかわいそうだった」「みんな同じ生きものなんだからいじめちゃいけない」「ぼくも虫をころしちゃったとき、ごめんね、つておはかにうめてあげた。いのちへのやさしいきもちがあふれる、子どもたちのかんそうです。



紙しばいの一場面

そうさくタイムでは、木の葉や、草や、花に、アクリルエのぐをぬってTシャツづくり。それぞれ、色やデザインで、こせいで、すてきなTシャツができてきました。

さいごのめいそうのあとの「しゅうちゅうりょくチェックゲーム」では、ことばが10でてきました。その中のひとつ

「“いつくしみ”ってなに」とつぶやくRちゃん。

先生がせつめいします。

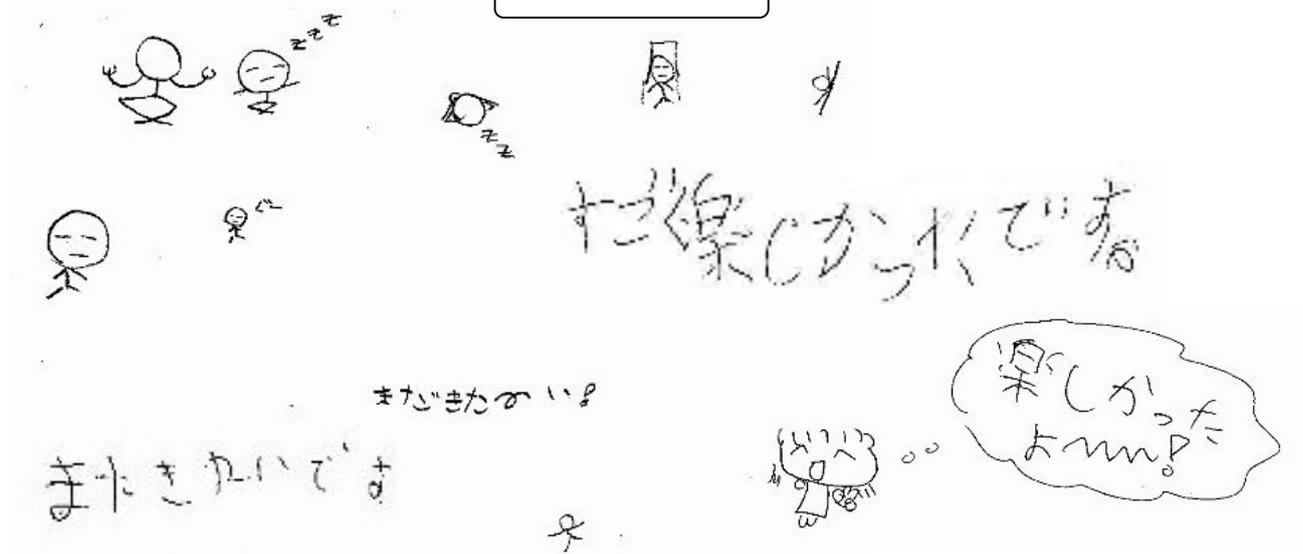
「めいそうして息をかんさつしていると、こころがおちついてやすらかになっていきますね。すると、イライラしたり、いじめたいというきもちがなくなってきました。カのように小さい虫にも、生きるものぜんぶに、やさしいきもちになれます。そういうやさしいきもちが、いつくしみのきもちです」。

「おうちへかえっても、こころがおちつかないとき、こまったとき、いつでも、この息のかんさつをやってみてくださいね」という先生に、「はい」と、えがおでこたえる子どもたち。

こうして、すべての子どもたちが、アーナーパーナめいそうをまなび、五つのやくそくをまもって生きていけるなら、世界はいじめもなく、平和なものとなることでしょう。そんなきぼうをかんじさせてくれる、子どもコースの一日でした。



子どもたちの感想



奉仕者の感想

コース後九ヶ月経ての子どもコースニュースのお届けとなりました。記事を書いてくださったKT様、大変遅くなり、申し訳ございません。ありがとうございます。

今回も、ベテランの奉仕者と共に、はじめて奉仕してくださった方が何名いらっしゃいました。(全員、大人の十日間コースの経験者です。)

終了後のミーティングでは、次のような声。以前から子どもコースに興味があったが、今回やっと参加できてよかった。

準備段階から楽しんでしまった。とくに紙芝居の制作には熱中してしまった。

すべて忘れて、子どもたちと同化し、時間も忘れて、いっしょに遊んでしまった。

午前十時から午後四時という限られた時間の中で、盛りだくさんのプログラムをこなしますので、奉仕者もメッター(慈しみの心)に加え、相当の集中力と平常心が要求されます。日ごろの修行が試されるときでもあります。子どもたちから、「この人たちは、めっちゃ優しい!」との感想をもらいました。ますます精進しましょう。

子どもたちがしあわせでありますように。生きとし生けるものがしあわせでありますように。